

「水曜サロン with 赤堀会長」第4期 第10回（通算55回）

生成AIが教育に与える影響

1. 内容

- ・ ChatGPTについて
- ・ ChatGPTが教育に与える影響
 - 評価を揺るがす
 - 学習者の学習プロセスを支援し得る
 - 教員の授業作りを支援し得る
 - 学習における活用に向けて

2. 所感

ChatGPTは間違ったり平凡だったり。まだ使うのは待とうと思っていましたが、吉田先生の話をして、再度興味がわきました。学習プロセスのサポートのお話ですが、ChatGPTと対話していくと、子どもが感想文を書き始めることが出来る。「まちがった」感想文を完成させるのではなく、プロセスをサポートしていく、頭の中から引き出してくれる。ただし、プロンプト（入力テキスト、指示）は複雑で、役割、目標、フロー、ルールを決めることで、このようなことが実現できるとのことです。また生成AIの仕組みについても教えていただきました。過去のテキストを参考に次に来る単語を予測して手視ストを出力していくという仕組みだそうです。シンプルですが、パラメーターが1000億を超えると色々な事が出来てくるとのことです。また、弱点を補うサービスとの合わせ技など、ChatGPTを世界中が育てている感じがしました。ChatGPTを想定した評価方法についてもご紹介いただきました。生成AIを利用したかしていないかを見分けることができないことを前提に、プレゼン、口頭試問、概念マップ、引用、体験などを評価に取り入れるようになるだろうとのことでした。

質疑は盛り上がり、義務教育での使い方、年齢制限、著作権など出ましたが、モノとChatGPTが融合した場合の懸念についても質問があり、ついにSFの世界だと思いましたが、企業から規制を提言するなどの動きも出ているようで、大きなリスクが懸念されながら、魅力、可能性に向けて、弱点を補い、改善し、世の中の役に立つ方向に進んでほしいと思いました。

吉田先生、本日は、わかりやすくお話しいただきまして本当にありがとうございました。

以上